

2009. 11. 20 (金)

徳島新聞

疫学などから
糖尿病を分析

徳大でシンポ

徳島大学大学院ヘルス

バイオサイエンス研究部の公開シンポジウムが19日、徳島市の徳大長井記念ホールであった。医学や歯学、栄養学などの分野で、糖尿病の原因解明や治療法の研究に取り組む徳大教授ら6人が講演。約150人が最新の情報に耳を傾けた。

船木真理^{フミマツ マコト}糖尿病対策センター長は、昨年から県民千人を対象に行っている疫学調査の結果を紹介した。血糖値が正常だった人のうち25%に、血糖値を下げるインスリンが十分機能しない「インスリン抵抗性」がみられると説明。「血糖値が正常でも糖尿病になるリスクがある。データ解析を長く続け、原因解明に役立たい」と話した。

歯学の分野では、永田俊彦教授（歯周歯内治療学）が糖尿病と歯周病の関係について解説。「糖尿病患者は歯周病になりやすく、歯周病は糖尿病を悪化させる。全身の健康維持には、早期の歯科治療が重要」と述べた。